



年男の弁(2)

年男の弁 石田剛毅 会員

皆さま、本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。

1966年生まれで、今年還暦を迎えます石田でございます。札幌東ロータリークラブには2016年に入会し、ロータリー歴は10年になりました。

本日はよろしく願いいたします。

私は創業32年になりますが、去年は創業以来初めて、1年に2回のベースアップを実施しました。電気代、食材費……最近は何でも値上がり、値上がり、値上がりです。職員の生活を守るためにも、必要な経営判断だったと思っています。もちろん、職員の給与も上がっています。

上がらないのは、私の学歴だけです。ただ、学歴は上がりませんが、私には昔から上がりやすいものがありまして——それは心拍数です。私はカーッとしたり、根を詰めすぎたりして、交感神経の興奮が続き、心臓のカテーテルアブレーションを二度やっています。二度です。二度やるとさすがに、「情熱は分割払いにしなさい」と言われます。

今日は、経営の規模の話や武勇伝はしません。海外展開されている先輩もいらっしゃいますし、支店長の皆さんも現場の最前線です。拠点数や売上の話をして、聞いている方は面白くない。私は創業社長で現場上がりですから、私にしかできない話をします。

体の専門家として、私の持論——「足腰のストレッチが経営を伸ばす」これを、師匠たちの教えと失敗談を混ぜてお話しします。私の学びは三人の師匠に集約されます。

一人目は、治療の師匠、関西鍼灸大学の黒岩先生です。私は先生からトリガーポイントを学びました。トリガーポイントというと難しそうですが、私はいつもこう言い換えます。「痛みのスイッチ」です。押した場所が痛いとは限らない。腰が痛いのに原因はお尻、頭が痛いのに原因は首やあご。体は筋膜でつながっていて、原因が遠くにあることが多いんです。そして私は、経営も同じだと思っています。表に出ている問題は「痛み」であって、「スイッチ」は別のところにある。現象だけに反応していると、ずっと同じ場所を揉み続けることになります。黒岩先生から学んだのは、「原因のスイッチを見つけて外す」という姿勢です。

二人目は、整形外科医の渡会先生です。先生の教えを一言で言うと、「鍛える前に整える」です。力技

で動かすと、どこかが代償を払う。位置を整えて、可動域を出して、効率よく動く。年齢を重ねるほど、この差は大きい。若い頃は気合いで乗り切れます。でも、年を重ねると、気合いで乗り切った“つけ”が来る。「仕事は分割できて、心臓は分割できないよ」私は心臓から、二回請求書を受け取ったわけです。

三人目は、公認会計士の佐藤先生です。私は先生からドラッカーを学びました。ドラッカーの言葉で、一番刺さったのはこれです。「成果は外にある」。社内でどれだけ忙しいかではなく、お客様や社会に何が残ったかが成果だ、と。私は頑張るのが好きなタイプなので、放っておくと社内の忙しさだけで満足しがちです。でも成果は外にある。内輪の熱量ではなく、外に残る成果を増やす。これが経営の背骨になりました。

私は「足腰のストレッチが、経営を伸ばす」と本気で思っています。もちろん文字通りのストレッチも大事です。でも今日言いたいのは、ストレッチの意味のほうです。ストレッチって、動かす前にまず“動く範囲＝可動域”を広げますよね。縮んだまま動く、鍛えると壊れる。会社も同じで、縮んだまま頑張ると壊れます。今は変化が速い時代です。制度も市場も価値観も動く。こういうときに必要なのは、馬力よりも可動域だと私は思っています。可動域が狭い会社は、動きが硬くなる。硬いと小回りが利かない。無理にひねって痛める。代償動作が増える。体と同じです。だから、いきなり鍛える前に整える。まず伸ばす。判断の可動域、現場の可動域、組織の可動域。ここが広がると、同じ人数でも動きが軽くなる。結果として、外に成果が出る。ドラッカーの「成果は外にある」に、体の理屈で近づける感覚です。

トリガーポイントの話に戻すと、痛みのスイッチ



■本日のロータリーソング

我等の生業

2025-2026年度

国際ロータリー会長のメッセージ

国際ロータリー会長：フランチェスコ・アレツツォ

よいことの
ために
手を取りあおう

はだいたい奥にあります。表面だけ揉んでも変わらないことがある。会社も同じで、表面の数字や目先のトラブルにだけ反応していると、ずっと同じ「痛み」が出続ける。奥のスイッチ——判断の基準、情報の流れ、役割分担、現場の安心感。ここを整えると、急に動きが軽くなる。私は治療も経営も、「スイッチを見つけて外す」「整えて可動域を出す」この発想でやってきました。

最後に、二度アブレーションをやった人間として、きれいごと抜きで一つ言います。経営者は頑張るのは得意です。問題は頑張り方です。縮んだまま頑張ると壊れます。体も会社も。だから、鍛える前に伸ばす。攻める前に整える。これは贅沢ではなく、持続のための技術です。私は身をもって知りました。

でも、できれば皆さんには、身をもって知ってほしくない。カーッとなりすぎない。心拍数を上げすぎない。ストレッチと深呼吸で、心臓は守れます。

私の学びをまとめます。黒岩先生からは、現象ではなくスイッチを見る目。渡会先生からは、力技ではなく位置と可動域を整える知恵。佐藤先生からは、内側の努力ではなく外に残る成果で考える視点。この三つが揃うと、体も経営もぶれにくくなります。

今年も世の中はいろいろ変わると思います。値上げも、制度も、流行も変わる。でも変化のたびに、全部を力でねじ伏せる必要はない。まず整えて可動域を広げて、必要な時にしっかり動く。足腰のストレッチみたいに、派手じゃないけれど効く。私はそれが一番強いと思っています。

本日はありがとうございました。

年男の弁 山本貴裕 会員

皆さま、本日は貴重なお時間をいただき、ありがとうございます。また、新年早々、歴史と伝統のある札幌東ロータリークラブにおいて、「年男の弁」の機会をいただけたこと、大変光栄に存じます。

私は2024年8月29日、札幌東ロータリークラブ第36代会長野村さんからご推薦いただき入会させていただきました。野村商店様と私の勤務先北海道電力グループとは長きにわたって仕事のご縁があり、これまで北電・北電ネットワークから28名が入会しております。その時々において諸先輩が大変お世話になっております。大変僣越ですが心から感謝申し上げます。

前回は酒井副会長と喜多さん、本日は石田さんからロータリアンとして新年に相応しいお話がありました。最後の私ですが、会員になってから1年半程度でロータリアンとして語るのは役不足ですので、今回は午年、特に丙午にちなんだ話を中心にいたします。

今年の干支は、十干十二支では「丙午(ひのえ・うま)」になります。十干でいう「丙」は、火の兄を意味し、地上を明るく照らす太陽のような、活発さや明るさを象徴するとされています。十二支の「午」も火の性質をもち、積極的な行動力などを意味するとされています。今年60年に一度、丙と午が重なり、「物事が大きく動き、飛躍に転じる勢いの年」ということになります。丙午トリオの喜

多さん、石田さん、私も活発さと明るさについては共通かなと思います。皆さん、どう思われますか？また、新年早々、世界も日本も大きく動いてきました。今年も政治もビジネスも、我がロータリークラブも大きな変化がある中、次のステージへ踏み出す前進の一年になるのではないのでしょうか。

さて、おかげさまで私は本年、年男と同時に還暦を迎えますが、子供の頃、祖父から「丙午は60年に一度。60歳まで生きられるよう、たくさん食べて、体を鍛えろ」といつも言われていました。実際、長命の家系ではなかったので、少し感慨深いです。丈夫に生んでくれた両親とこれまで支えてくれている妻に感謝しているところですが、まずは誕生日の4月まで健康と安全を最優先に一日一日、大切にしたいと思います。そして、毎週の例会で皆さんから貴重なお話と元気をいただき、そしてパークホテルさんの美味しい食事と素晴らしいサービスをいただくことで、心身のバランスを整え、エネルギーを充電しまして、本クラブの皆さんと共に次の丙午を目指していきたいと思っていますので、引き続きご指導・ご支援よろしくお願いいたします。

現在、広報委員会のルーキーとして当クラブのホームページを見ることに努めています。新宮委員長はじめ各委員・全会員のこれまでの熱い思いとご尽力により、歴史ある膨大なデータと素晴らしいコンテンツに時空を超えて出会うことができます。せっかくの機会ですので1966年丙午、昭和41年1月6日の卓話を紹介します。当日は、斎藤俊二会員、清水石松会員、岩田徳治会員の午年3名の方のテーブルスピーチがありました。

斎藤さんは当日突然のご指名だったようですが、天馬空を行く、駿馬、馬耳東風などの諺を交えながら、太古から続く馬と人間の結びつきや科学の進歩に伴う人間性の喪失について語られたようです。斎藤さんは齊藤医院の先生で、「病気は心身のアンバランスから生じるもので、医者と患者の心と心のふれあいがあって治療は最大の効果がある」と、医は仁術であることを説かれました。岩田さんは岩田建設創業者。当日は消防出初式の消防団服で午年の偉人として織田信長、日蓮、聖徳太子を紹介し、「午年は景気が良く農作物がよくなる年なので大いに馬力をかけて発展しましょう」とのご挨拶。清水さんは北海道日通自動車を経営。丙午生まれで還暦。娘さんも午年で、そして丙午の新年にお孫さんがご誕生されたという幸せ感溢れるお話でした。

本年心新たに札幌東ロータリーを学び楽しみ行動して、皆さんと共に夢や希望を分かちあえるよう、微力ですが私に頑張ってもらいますのでよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

